

Customer Story

IFSパートナー NEC

IFS導入により生産2システムを統合、
変動へのスピーディーな対応を実現

東洋電機製造株式会社は、1918年（大正7年）、鉄道車両用電気機器の国産化の使命を受けて設立。それまで輸入製品に頼りきっていた鉄道車両の心臓部である主電動機、制御装置などの製作にいち早く取り組んだ由緒ある電機メーカーです。同社の最先端技術は、新交通システム「ゆりかもめ」や、2000年グッドデザイン賞を受賞した「プラットフォーム・セーフティシステム」など、幅広い分野で私たちの身近な社会生活に活かされています。

グローバルな市場における競争の激化、常に進化する技術、刻々と移り変わる市場ニーズ。製造業をとりまく環境は厳しさを増すばかりです。産業や社会に貢献するモノづくりと、顧客との「感動」の共有を目指す東洋電機製造にとっても、生産性のさらなる向上は至上命令でした。



新システムの導入の背景には、工場の統合による異なるシステムの統合、業務プロセスの標準化によるコスト削減、生産サイクルの向上がありました。同社の製品は、いわば人の安全を守る重要な技術です。それだけに、問題点を確実にフォローして迅速な解決を可能にするシステムが求められていました。



IFS Applicationsは、機能コンポーネントが部品化されているため、将来の変更にもコンポーネントの追加で容易に対応できます。また、業種別のビジネスプロセスが用意されているので、その標準プロセスを利用することで、短期導入と業務の標準化が図れます。IFSのこうした優れたオープン性と柔軟性が、東洋電機製造グループのシステム会社「東洋商事」におけるIFS採用の決め手となりました。

IFSの導入によって、従来2つあった生産管理システムを統合することができ、結果として、設計から手配までの業務効率率は向上し、変更処理への柔軟かつ迅速な対応が可能になりました。また、所要量計算のタイムバケットを5日から1日に短縮したことで、製造期間は大幅にスピードアップ。しかも、大きな弊害であったシステムの二重の運用費も大幅に削減しています。

今後も、東洋商事を中心にインターネットを利用し、データベースを公開して営業活動に活かすなど、さらなる業務のスピードアップを目指します。